

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」1階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	平成 29年7月18 日	評価結果市町村受理日	平成29 年 10 月 13 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35 コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成29年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は住宅街にあり、市役所や郵便局、小学校、警察署等官公庁の近くで、近所には理美容院やコンビニも近い等、生活に密着した利便性の良い環境に位置しています。今年開設14年目を迎え、近隣住民とは顔馴染みになっていて、入居者様の顔を覚えて下さる関係にあります。当事業所は男性の入居者様が多く、一人ひとりが“互いを思い合いながら”自分の生活リズムで穏やかに過ごせるよう、支援に努めると共に、全ての利用者様の意向やご家族様の思いを大切に捉えながら心地良い居場所となるよう努力している所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR名寄駅に近い住宅街に位置し、近くには小学校、市役所、郵便局、コンビニなどがあり生活環境に恵まれている。鉄筋コンクリート造り2階建て2ユニットの居間、食堂、小上がりは一体的で明るく、家庭的でゆったりと寛げる空間となっている。又、中庭には桜、紅葉、つつじ、アジサイなどがあり季節の移り変わりを感じることができる。利用者は祭や、町内会の行事(ビールパーティなど)に参加したり、散歩時の会話などで地域住民と顔見知りになり、事業所の行事(焼肉パーティなど)には、地域住民、家族が多数参加して交流している。家族からのアンケートには、施設長をはじめ職員は気さくで話し易く、利用者が最近以前より元気になった等多くの家族から感謝の意が表されている。母体三愛病院との医療のバックアップ体制、災害時の協力体制を確立し、毎週看護師が来訪して利用者の健康管理を行っている。利用者は残存能力を活かし洗濯物たたみ、茶碗洗い、下膳などを行ったり、ゲーム、ぬりえ、母体病院のリハビリメニューを取り入れた体操などをしながらゆったりと思い思いに過ごしている。職員は明るく利用者、家族の意向を組み取り、利用者が安心して、自由に生活できる自分の家となるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に玄関にある理念を黙読している。また、カンファレンスや勉強会の場において、理念の大切さを学び、意識しながら実践に繋げている。	事業所理念「安心して、自由に生活できる」、「生きがいをもって、地域の中で楽しく生活できる」、「心豊かに、自分らしく生活できる」家であること。理念は自分の家の延長として考えている。事業所理念を玄関に掲示して黙読確認し、全体会議、内部勉強会で共有して実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流する機会はないが、散歩時の挨拶や運営推進会議、年2回の避難訓練、事業所の行事や町内会の行事の参加などを通じて交流を図っている。	地域の中で楽しく生活できるよう、地域の祭り、町内会行事(ビールパーティ等)、事業所行事(焼肉パーティ等)で交流し、散歩時の挨拶で親交を深めている。敬老会にはボランティア(オカリナ演奏)が来訪し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敢えて事業所から情報発信はしていないが、運営推進会議や避難訓練、行事等を通じて実際に入居者と接してもらったり、現状を報告する中で認知症への理解を深めて頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の席上で日々の取り組み状況や外部評価で受けた課題を報告し、意見や取り組み課題を説明しつつ、サービスの向上に繋げている。	利用者、家族、町内会(会長、民生委員他)、地域包括支援センター職員などが出席して、2ヶ月に1回開催し、運営状況、入・退去状況、職員研修、行事などを報告して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。運営推進会議での意見・助言を得て、災害時に地域住民の応援を得るため、外付けのベルを設置した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の市町村との連絡・情報交換は、主に管理者が対応しているが、運営推進会議への出席の中では、職員も意見やサービスの在り方を参考にさせてもらっている。	市役所は近くにあり、訪問して利用者の状況などを報告し、情報交換や指導、助言、研修会の案内などを得て協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々支援する中で、転倒による事故を意識するあまりに「危ないよ」と言葉で制してしまう場面があり、勉強会やカンファレンスを通し自分達のケアを振り返る機会を設けている。玄関の施錠は夜間の防犯上のみとしている。	身体拘束をしないケアの勉強会を行って、言葉づかい(危ない、ちょっと待って)による拘束などを正しく理解し身体拘束をしないケアに努めている。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事と認識しており施設内外での勉強会や研修の確保とスタッフ間で注意を払いながら防止に努めている。			

ループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、主任、リーダーが研修に参加し、伝達講習を行っている。又、個人的に研修を受けている職員もいる。利用開始になる入居者さんも居られる事からも、近隣で開催される権利擁護の研修会などへ、積極的に参加し学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に重要事項説明書、契約書等、時間を掛けて説明を行い、納得されている。制度の変更等に関しても、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で入居者、御家族の意見を反映させている。面会時やケアプランの説明時に御家族の意見も聞き、運営に反映させている。	利用者の意見、要望は日常の会話から意向の把握に努め、連絡ノートで職員が共有している。来訪される家族も多く、来訪時、運営推進会議参加時に意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者へ個人での提案や、カンファレンス、全体会議からの意見を提案している。又日常の業務の中でも管理者に意見や提案をする事で、管理者から代表者へ更に提案を行い運営に反映させている。	日常話し易い雰囲気であり、日常業務の中や各ユニット内での話し合い、カンファレンス会議、勉強会、全体会議時に意見、要望を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により昇給や賞与アップ等、就業規則に細かく書かれている。又永年勤続している職員には表彰等、向上心を持って働ける様な職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会の実施。研修会への参加や、個人での資格取得に関して働きながら学べる環境で、職員の知識の向上に努めている。毎月の勉強会や研修を行う事でスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻度は少ないが研修会を通じて、同業者の管理者および、職員間の交流も持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が対応し御家族に話を聞き困っている事、不安な事を聞き出せるよう努め、入居後においても不安や困り事が少しでも減らせるよう意向の把握を行う事で安心した生活に繋がるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話しが聞けるような関係作りに努め、家族の不安が減らせる様にと認識している。面会時に御家族との情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が入居の申し込みがあった段階で、必要に応じて他施設の紹介や本人、家族の困りごとを把握しながら必要なサービスに繋げられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有することの大切さを認識している。また、本人の持てる力を活かせるよう働き掛ける事で、一方的な関係にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、近況を伝える事で情報の共有を図る様心掛け、本人の思い、家族の思いを大切に捉えながら、双方の関係性が良好になるように関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出は家族付き添いで自由にして頂く事や、馴染みの理美容院への付き添いを行う等、本人、家族の意向の大切を大切にしている。又知人、友人の来訪時には、ゆっくと歓談して頂くように支援を行っている。	職員は利用者との日々の会話や家族等の情報から利用者の生活歴を把握し、知人、友人の来訪、家族の面会など来訪時にはゆっくり寛げるよう支援している。利用者は馴染みの理・美容院に行ったり、以前住んでいたところを見にいたり、家族と一緒に墓参りに行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に良好な関係とは限らないが、気が付くと仲の良い光景が見られたりと、殆どが自然の内に関係性を修復し、互いを気遣える関係性になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が退居した入居者の様子を病院や他施設に様子を見に行っている。その様子の報告を受けている。次第に関係は希薄になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリング、カンファレンス等で本人の意向の把握に努めている。入居者一人ひとりの希望、意向に近づけられる様努め、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添うケアを心掛けている。	日々の会話や関わりから思いや意向を把握し、職員で共有している。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所からの情報提供、御本人、御家族から話を聞き取を行いながら、今迄の生活が出来る限り継続されるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや業務の中で一人ひとりの希望、意向を把握し心身の状況に変化があれば、普段から業務の中で情報交換を行う事でちょっとした変化に気付き見逃す事がないように気を付けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、毎月のモニタリングを行い意見交換やアイデアを出し合っている。ケアカンファレンス、モニタリングを通じて、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の希望を聴き、カンファレンス、毎月のモニタリングを行って意見交換し、3ヶ月ごとに現状に即した介護計画を作成し家族に説明して確認印を得ている。入院など状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の様子やケアの実践、結果、気づきを記入する事が出来ている。サービスを行った際には青色で記録を書き、見直しに活かせるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望を取り入れ、毎週日曜日の昼食を施設で食べて頂いている。今後も柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加する事もある。月に1度施設で行事を行い、入居者が心身の力が発揮出来る豊かな暮らしを楽しめると良いが、現状としては難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を捉え、かかりつけ医に継続して受診出来るよう支援している。また、状態に変化が認められた際は専門医への受診等適切な医療に繋げている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。市立病院にかかる人が多くなっている。受診時は職員が同行支援し受診結果については、家族に知らせている。週1回看護師が来訪し利用者の健康チェック、相談等を行っている。	

ループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問で入居者の状態、状況を報告。受診等のアドバイスを頂いている。母体病院との連携に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、直ちに情報を伝える事で、日々の生活状況を把握していただき、ご本人が少しでも安心した状態の中で治療、療養が出来るよう努め、早期退院に向け、病院関係者やご家族との情報交換が密に取れるよう関わっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまでは出来ない事を、管理者から御家族に説明している。重度化に向かう中で、事前に予想される事、どの様な可能性があるかを、医師の判断と一緒に聞いて頂き、ご家族の支えも受け、事業所で出来る精一杯のケアを提供している。	契約時に利用者、家族に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し理解を得ている。重度化した場合は主治医の判断を基本に、本人、家族と話し合い事業所で出来る精一杯のケアを提供することとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を全ての職員が受けている。応急手当や初期対応についても救命救急講習の際に学んでいる。今後実践力が身につけられる様に、努力していきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	呼集訓練と消防訓練を年に2回実施している。訓練時には地域の方々や関係機関との協力体制を築く事は出来ている。洪水対策については、事業所内において垂直避難訓練を実施している。	消防署の協力、地域住民、大学生の参加を得て避難訓練(夜間想定)を年2回実施している。火災時の避難場所には法人が運営する名寄三愛病院を指定して連携体制を築いている。消防署からの講評、訓練結果について、運営推進会議で報告して課題や対応策を共有している。	防災マニュアル等を策定して災害時に備えている。利用者のより安全の確保に努めるため「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引」北海道保健福祉部作成を参考に計画等の策定や見直しを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けや入浴、居室への出入りの声掛け等、人格を尊重し対応しているが、時には声が大きくなりがちな時や、何度も尋ねてしまう事もあり、更に配慮が必要な事と捉えている。	利用者の人格尊重とプライバシーの確保については職員が十分に理解し、言葉かけに気をつけ、尊厳や誇りを損なわないケアに努めている。一人ひとりの気持ちを大切に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定が出来る様に働きかけている。また、自分の意思を表出できない方の想いに近付ける様、意識している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースやリズムで生活できるような支援や、生活の中からの要望等に対し、出来るだけ速やかに対応できる様、取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理、美容院の送迎や付き添いを行っており、常に服装や身だしなみ、清潔に気を付け支援している。その日の気温や季節にあった服装への配慮を行っている。			

ループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備への参加は出来ていない。片付けに関しては食器拭きや、テーブル拭き等をして頂いている。入居者の嗜好は把握できていて、苦手な物の時には、別メニューを用意したり行事食や季節感を取り入れた食事を提供している。	献立作成と食材を外注し、職員が交代で調理している。利用者は能力に応じ、茶わん洗い、下膳などを行っている。利用者の希望を聞いてメニューを変更している。冷やしラーメンなどの季節のメニューや畑で採れたかぼちゃで団子を作ったり、とうきびなどの差し入れがあり、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。外食にも出かけている。昼食は安価でありながら料理の創意工夫が見られ職員が作ったカレーライスが美味しく好評で皆さん完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を使用している。毎日、食事量、水分量はチェックしている。食事量が少ない入居者には別メニューや補食の用意、栄養状態の悪い方は、機能性栄養補助食品を処方していただくなど、栄養や水分確保の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に、起床時、夕食後の口腔ケアになっている。ケアが難しい入居者や汚れが目立つ入居者等は定期的に歯科に受診し、口腔内ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況やADLによって声掛けやトイレ誘導を行い、夜間はADLや頻度、本人・家族の意向でポータブルトイレを使用している方も居られるが、個々に合わせ少しでも自立した排泄が出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを表情、態度などから把握して、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩等の運動や食事・水分の摂取状況を把握し、自然排便を意識しているが、便秘になりがちな入居者も多く、定期受診や心配な時は、更に受診を重ね悪影響を及ぼさない様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や状態に合わせて、出来る範囲での入浴を支援している。入居者は週に2回以上の入浴となるよう、好みの温度や入り易い声掛けを意識する事で入浴を楽しんでいる。	利用者の希望を最優先するが、週2回以上の入浴を基本としている。入浴剤を入れたり、昔話をしながら入浴が楽しくなるよう支援している。入浴を嫌う場合は無理強いせず、声掛けする職員を代えたり、入浴日を代えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	多くは自分のペースで休息や就寝されている方が殆どだが、中には、入眠しやすい様に服用している方も居られる。又、安心して気持ち良く寝れるよう、寝具の調整や温度、刺激の配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の把握全ては出来ていないが、分からない事は、説明書や受診ノートを活用し情報の共有に繋げ、内服後の変化が見られた際は、医療機関に問い合わせや再受診を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員との会話を楽しみながら、洗濯物やタオルたたみを行って頂いている。体操やレク、季節の行事を取り入れ気分転換を図り、喜びのある日々が送れる様、支援している。		

ループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブ、花見、散歩の機会をつくっている。中には家族で外泊される入居者もいる。町内会のイベントには、希望者を募り職員と参加している。地域の人々と協力して出掛ける機会までには至っていない。	散歩、中庭での外気浴、ドライブ、水田に訪れる白鳥を見学したり、花見、紅葉見学など外出支援を行って、日常生活に潤いと変化のある生活を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事、使う事の大切さの理解は出来ている。一部の方はお金を所持しているが、使う機会は限られた内容になっている。本人の意向や力に応じ、更に機会の確保に努めたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的にやり取りされている方はいないが、家族に電話して欲しいと希望がある時には、本人の携帯から電話する支援も行っている。又、身内から届け物があつた際には、お礼の電話を促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕方から夜間帯に掛けては不安が大きくなり易い為、刺激が強過ぎる事の無いよう配慮を行っている。季節によってはひな人形やセタ、クリスマスの飾り付け、季節感が出る様、工夫している。	居間、食堂、小上がり(和室)は一体的で明るく、家庭的でゆったりと寛げる空間となっている。温度、湿度などを適正に管理し、不快や刺激がないよう配慮している。小上がり(和室)は掘りコタツで家族との食事や団らん利用している。セタ、ひな人形などを季節に応じ飾りつけ季節感を感じるよう工夫している。又、中庭には桜、紅葉、つつじ、アジサイなどがあり、外気浴をしたり季節の移り変わりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ、和室等ホール内で好みの場所でマイペースに過ごし、気の合った入居者同士で思い思いに過ごさせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂き、自分好みの落ち着ける居室となるようにと伝えている。個々によつての差もあるが、概ね、ご自分の居室として居心地良く生活されている。	居室には使い慣れたテレビ、ソファ、ベット、家具などを持ち込み、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりは必要な個所に設置。自立した生活が送れるよう工夫している。共有している物は動かさずに安全に使用できるようにしている。		